

東日本大震災：シンガポールからの支援

東日本大震災発生後、シンガポールからは数多くの支援の手が差し伸べられてきました。この内、シンガポール赤十字社を通じて寄せられた義捐金は、被災地の4か所に保育所、コミュニティーセンターなどを建設する費用に充てられています。すでに3か所のセンターが開所しており、2014年にはすべてのセンターが開所する予定です。
([シンガポールの支援概要](#))

私は、2013年12月、一時帰国した機会を利用して、1泊2日の短い日程でしたが、宮城県七ヶ浜町と岩手県宮古市にある施設を訪れました。いずれの施設でもシンガポールからの支援が感謝され、地域のために生かされていることを実感しました。

七ヶ浜町立遠山保育所

七ヶ浜町立保育所は2013年5月に開所しました。保育所には、公募の上、シンガポールのマーライオンにちなんで「らいおんパーク」というサブネームがつけられています。開所式には、シンガポール外務省上級政務次官、チン駐日シンガポール大使も参列し、子供たちとお昼を一緒に食べて交流しました。また、保育所開設に合わせ七ヶ浜町国際村でシンガポールフェアが開催され、盛況だったとのことでした。

現在、生後6か月から5歳までの子供たち約40名が保育所を利用しています。私がおじゃました時には、お昼寝の後、ちょうどおやつの時間が終わるころで、子供たちが歓迎の歌を歌ってくれました。また、当日は、スタッフの皆さんに加え、兵庫県の高校から来たボランティアの皆さんが子供たちの世話をしていました。兵庫県からバスで12時間かけて七ヶ浜まで来たとのことでした。外は寒い風が吹いていましたが、元気な子供たちの様子に心が温まるひとときでした。



(遠山保育所パンフレット)



(七ヶ浜国際村シンガポールフェア)



(遠山保育所所長との写真)

宮古市田老サポートセンター

田老サポートセンターは2011年11月に開所しました。センター外壁の赤い線はシンガポールの国旗の赤をイメージしたもので、センター入口にはセンター建設の由来を記したプレートが飾ってあります。センターでは被災高齢者の方々を中心とした事業を行っており、一日平均約40人が利用しています。私が訪問した折には、付近の仮設住宅で生活しておられる方々が折り紙をしたり、談笑しておられました。備え付けのマッサージ機を利用しておられたご婦人は、「狭いところに閉じこもってばかりいてもね。ここに来ると気分転換になる」と言っておられました。このほか、センターでは要支援者の見守りなどの事業も行っています。被災者支援ボランティアのイベントもよく開催されています。この日の午後にはシンガポール長老教会の皆さんがセンターを訪問することになっていました。シンガポールとの絆がこのような形で続いていることを知り、嬉しく思いました。



(センター前景)



(記念プラーク)



(田老サポートセンター長との写真)

今回の訪問にあたっては、七里ヶ浜町立遠山保育所、宮古市田老サポートセンター、宮城県庁、七ヶ浜町、岩手県、宮古市の皆様に、年末のお忙しい中、大変お世話になりました。また、皆様から伺ったお話は、静かな語り口の中に、大震災の惨状を伝え、郷土の復興への思いを感得させるもので、強い感銘を受けました。この場を借りて、皆様のご厚情に心より御礼申し上げます。

駐シンガポール日本国大使

竹内 春久

(2013年12月 記)